

3 1 東京ボランティア・市民活動センター

行動計画記載の内容等
<p>1 男女が共に参加できるボランティア、市民活動の情報提供と相談活動を推進する。 多様な領域のボランティア、市民活動の情報をニュースレター、ボード、インターネット等で提供する。 ボランティア活動への参加やNPOの設立・運営についての相談を行う。</p>
<p>2 研修・講座を開催し、多様な人たちの参画による市民社会をめざす。 男女及びシニア、企業人等のボランティア、市民活動への参加促進のための研修を行う。 ボランティア、市民活動の体験プログラムを企画し、介護体験、育児体験など多様な参加促進の機会を提供する。</p>
<p>3 男女が人権を尊重し、誰でもが共生する市民社会にむけてネットワークを図る。 DVやさまざまな偏見などから守る活動をしているボランティア、NPO等と連携を図り、その活動内容や課題等を紹介し、ネットワークを図り、支援する。 地域の中で高齢者、子ども、障害者などが共に過ごす拠点を確保し、それを運営しているボランティアやNPO等の活動別ネットワークを図り、人権の擁護や男女参画による多様な活動を推進する。</p>
<p>4 子どもたちがボランティア活動等に参加し、地域社会のなかで健全に発達していく機会をつくる。 子どもたちのボランティア活動への関心を高め、男女の人権や介護、国際理解などの理解を促進する。 教育関係者やボランティア、NPOとの連携、協力のもとで多様な参加機会をつくるシステムを構築する。</p>

「男女平等参画のための東京都行動計画 平成 17 年度取組実績」

17 年度の具体的取組内容	実 績
<p>1 男女がボランティア、NPO等の活動に参加を促進するため、情報の提供と相談活動を推進する。ボランティア、NPOの情報を随時提供するため、情報誌『ネットワーク』の発行、ホームページ、ボードに随時提供 ボランティア、NPOの設立相談、及びガイダンスを定例的に開催する。また、会計、財政、等専門相談を開催する。</p>	<p>1 男女が共に参加できるボランティア、市民活動の情報提供と相談活動を推進する。 ボランティア、NPO等に関する情報提供として、情報誌「ネットワーク」を年6回発行し、多様な活動内容を知らせた。また、ホームページにおいて活動へ参加できる機会を常時掲載し、約80万件のアクセス数になった。 ボランティア、NPOの設立相談、運営について、ガイダンスを月2回定例開催し、相談を受ける。また、会計、税務等について専門家による相談を月1回おこない、運営について相談対応をした。あわせて、会計等の講座を開催した。</p>
<p>2 研修・講座等を開催し、多くの人たちの理解と参加を促進する。 男女及びシニア、勤労者、青少年等のボランティア、NPO等の参加促進のため、多様な体験プログラムセミナーを開催する。 企業と協働し、社員のボランティアプログラムを企画、実施する。</p>	<p>2 研修・講座等を開催し、多くの人たちの理解と参加を促進する。 ボランティア、NPOに関心のある男女及びシニア、青少年等に、ボランティア体験プログラム約2600件等々を提供し、約9000人参加、また、多様な活動テーマをもとに課題別に協議し、情報交換を行うボランティアフォーラムに1100人の参加。 NPOの活動への理解を促進するために、NPO入門講座を5日間開催した。 企業、労働組合と協働し、社員向けボランティア講座を開催、約15企業・労組と開催した。 NPO等への参加募集情報をホームページ「つなぎ」に掲示した。</p>
<p>3 男女が人権を尊重し、誰でもが共生できる市民社会の実現にむけてネットワークをすすめる。 DVの被害者や子育てに悩む親等に対してサポートしているボランティア、NPO等とのネットワークを支援し、その課題や活動内容の情報交換をすすめる。 グループホーム、ホームレス等をはじめ、活動推進・支援しているボランティア、NPOの活動別ネットワーク化の促進を図る。</p>	<p>3 男女が人権を尊重し、誰でもが共生できる市民社会の実現にむけてネットワークをすすめる。 DVの被害者に対して、企業の協働とボランティアの参加により、IT技術を学習するプログラムを用意し、シェルターの協力を得て実施した。また、ボランティア等関係者の懇談会等を開催した。 ホームレスの課題をまちづくりの視点からとらえ、ボランタリーフォーラムのなかで情報交換をおこなった。 子供の虐待経験者や海外での子育て経験者さらに支援している施設など、子育てについて地域社会の課題をワークショップを用いて協議した。</p>
<p>4 児童、学生たちがボランティア活動に参加し、地域社会のなかで、健全に発達していく機会を推進する。 「総合的学習の時間」など学校等と協力し、男女の人権や介護、国際理解などボランティア活動の学習と体験を促進する。また、活動している人たちとの交流する「教育フォーラム」を開催する。大学のボランティアセンター設置、運営を促進し、関係者の協議とネットワーク化を促進する。</p>	<p>4 児童、学生たちがボランティア活動に参加し、地域社会のなかで、健全に発達していく機会を推進する。 「総合的学習の時間」のプログラムづくりについて、小平、墨田の地域において実践をふまえたワークショップを開催した。また、学校関係者、PTA、ボランティア等による関係者懇談会を開催し、課題整理と情報交換を行った。 大学においてインターンシップが広がりをみせている。NPO,NGOへのインターンシップの課題や現状について、状況報告等をおこなった。 「夏、体験ボランティア」を区市町村ボランティアセンター、NPO、施設等々と協力してプログラム提供を図った。</p>